

な

ご

み

っ

う

し

ん

発行日：平成30年11月26日(第47号)

発行：島田療育センターはちおうじ

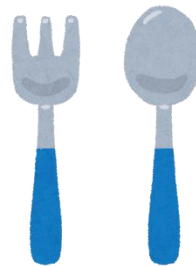
皆さんは、胃ろうをご存知でしょうか？胃ろうとは、腹壁と胃壁に穴（胃ろう）を開け、経管栄養を行うためのチューブを留置して栄養を入れる方法です。胃ろうから、ミキサー食を入れることがいいことがわかってきました。その出来事を紹介します。

所長 小沢 浩

～ 食べる ～

私と、ミキサー食注入の出会い、5年前にさかのぼります。

Aさんは、成人式を目前にした男性です。経管栄養で食事をとっていました。肺炎になり、総合内科に入院しました。抗生剤で肺炎は改善したのですが、抗生剤の副作用で下痢になってしまいました。入院して1か月後、総合内科と相談し、下痢のままでも、点滴をはずし、胃チューブから水分摂取できたら、当院の外来に毎日来ることにして退院しました。



外来に来たAさんは痩せこけていました。体重は21kgから18kgに減少し、栄養状態も悪く、腰と耳に褥瘡がみられました。下痢は注入ごとにみられ、おしりは肛門を中心に広範囲にただれていました。皮膚ははりがなく、笑顔が消え、動きませんでした。外来で毎日点滴を行い、脂肪やビタミン剤を入れました。通所のデイサービスを再開し、点滴をしながら毎日参加しました。Aさんの下痢は、1日2-3回に減りましたが、よくなりませんでした。4ヵ月たったときに、スタッフから、「ミキサー食注入ができないだろうか。」と提案がありました。胃チューブが入っていましたが、スタッ

フの努力により、一日一回ミキサー食注入が開始されました。

注入を開始して3日たったときのことです。お母さんが、「みて！みて！」と私のところに走ってきました。それは、形のあるウンチの写真でした。ミキサー食注入が下痢を治したのでした。私は、その写真を見てお母さんと跳びあがって喜びました。Aさんに笑顔が戻りました。

ミキサー食注入は、子どもと家族を幸せにする。

そんな思いから、この本が始まりました。

ミキサー食注入を先進的に取り組んでいる施設に、声をかけさせていただき、すべての方々が喜んで協力してくれました。

そして、なによりもレシピを提供してくれたお母さんたち。

何回も集まって、何回も料理を作って、何回もやり直して、何回も写真を撮って、……。

その努力には頭が下がります。本当に感謝します。

この本は、そんな思いが詰まった結晶です。

「ミキサー食注入はしたいけど、やり方がわからない。」

という声をお母さんたちからよく聞きます。



この本によって、ミキサー食注入をする人が増え、子どもと家族の笑顔が増えれば幸いです。

「幸せの輪」

が、広がっていく。

この本が、そのお役に立つことを、私たちは願ってやみません。



小沢浩、大高美和編

「おkaaさんのレシピから学ぶ」

医療的ケア児のミキサー食」

南山堂より、発売中

最後に：なごみつうしんを4年間ご愛読いただき、今までありがとうございました。いったん休止いたします。いつかまた、再開したいと思いますので、そのときまでお待ちください。

所長 小沢 浩